

第2回 長野県教員研修体系作成会議 次第

日 時 平成25年7月22日(月)

午前9時30分～12時

場 所 県庁8階 教育委員会室

1 開 会

2 あいさつ(教育長)

3 議 事

(1) 長野県教育の理念と教員のミッションについて

(2) 教員に求められる資質能力と研修内容について

(教員としての倫理観や遵法精神、「人間力」の養成に係る研修等)

(3) キャリアアップ研修の実施方法について

(4) ライフステージに応じた研修のあり方について

(5) その他

4 閉 会

「長野県教員研修体系作成会議」委員名簿

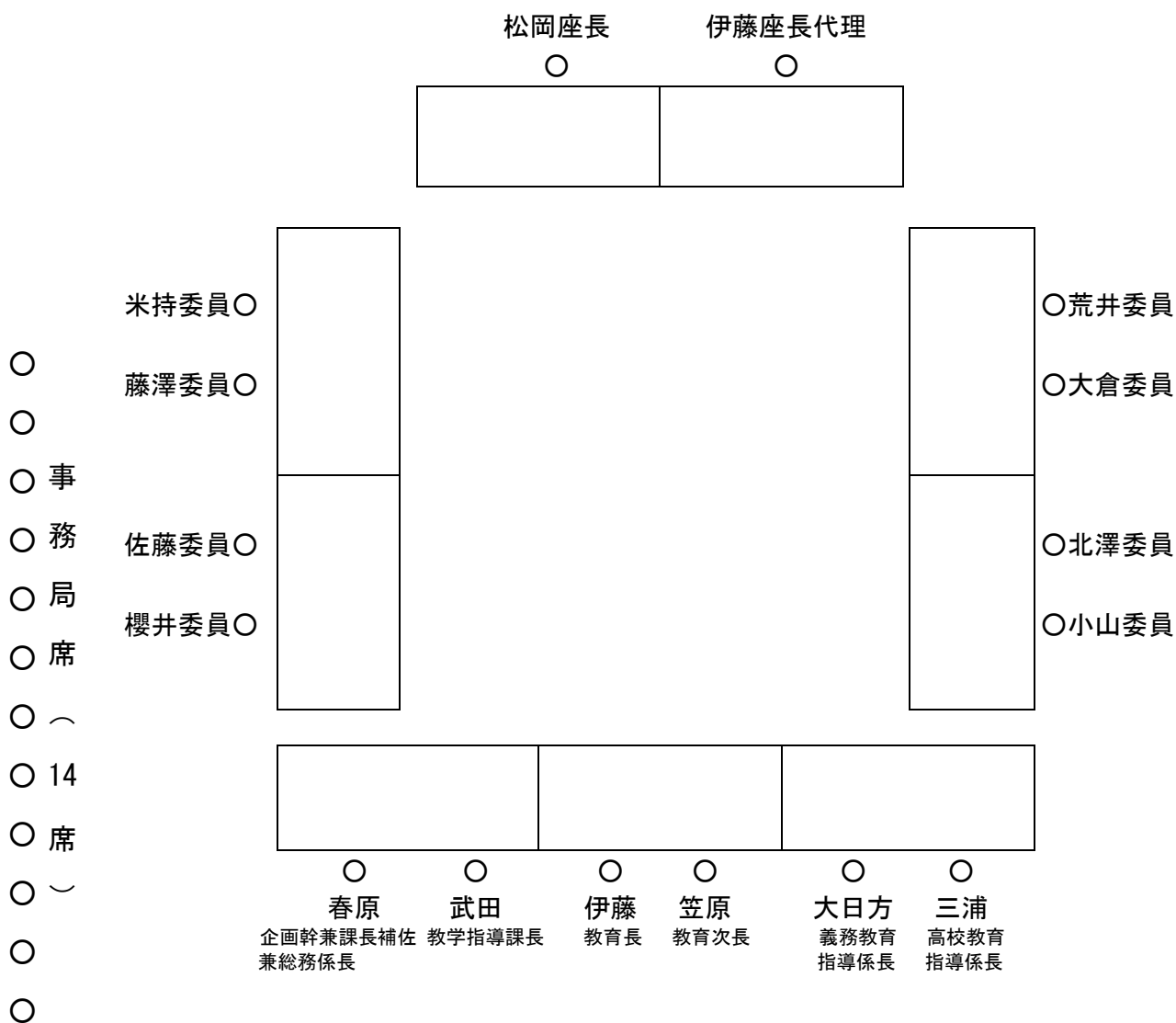
(敬称略)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
まつおか えいこ 松岡 英子	信州大学教育学部教授	座長
いとう かおる 伊藤かおる	株式会社コミュニケーションズ・アイ代表取締役社長	座長代理
あらい えいじろう 荒井英治郎	信州大学全学教育機構教授	
おおくら よしろう 大倉 嘉郎	公益社団法人信濃教育会研究調査部長	
きたざわ よしたか 北澤 嘉孝	小海町北相木村南相木村組合立小海中学校長	
こやま としかず 小山 壽一	上田市教育委員会教育長	
さくらい たつお 櫻井 達雄	長野県長野西高等学校長	
さとう ひろみ 佐藤 洋美	主婦	
ふじさわ れいこ 藤澤 令子	一般社団法人長野県経営者協会教育研修部課長	
よねもち きぬこ 米持 絹子	長野県松本ろう学校長	

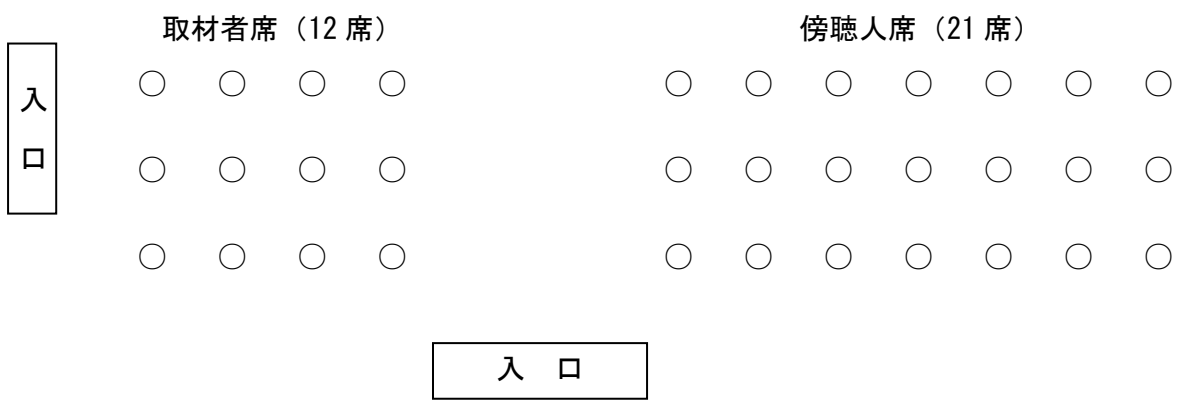
※任期は、委嘱の日から平成 26 年 3 月 31 日まで

第2回 長野県教員研修体系作成会議 座席表

県庁8階 教育委員会室



報道カメラ



第1回長野県教員研修体系作成会議の記録（議事の概要）

日 時 平成25年6月12日（水）

午前9時30分～12時

場 所 県庁8階 教育委員会室

1 議論に先立つ確認

- ・ 教育の理念、教員のミッション、教員に求められる資質能力、それぞれに「長野県の～」を付けて考える。
- ・ 長野県の教員研修体系は、これまで構造的に示されることはなかった。教育の理念や教員のミッションも長野県全体で議論されたり明らかにされたりすることはなかったが、一人一人の教員が持ち、共有されてきた。この会議で、理念やミッションを再確認し、教員、県民にとってわかりやすい言葉で示したい。
- ・ 教育の理念を論じるとき、どのような人材を育てたいのかを明確にし、その時代に応じて検討する必要がある。しかし今回の会議では、長野県の教育として不易な営みや教員の役割、有り様について議論したい。

2 長野県の教育の理念

- ・ 教育の理念の根底にあるのは、子どもの健やかな成長を願うこと。そのために、教員の職能向上の研修がある。
- ・ 生活に根ざした教育は、地域素材を生かし、自然豊かな環境をフルに生かした長野県独自のもの。地域と共にある学校も同様。長野県の教育で誇りに思うことは、努力している先生が少なくないことと、保護者の理解や協力があること、行政も重点化して行ってきたことである。
- ・ 地域社会の一人として、自然と共に生きてきた知恵や歴史を教育の礎と考えた場合、地域と共にある学校や生活に根ざした教育というのがキーワードになると考えられる。
- ・ 地域と共にある学校の「ある」は現状でストップしているため、地域と共に歩む学校と未来志向で考えたい。
- ・ 特別支援教育の観点からは、お子さん一人一人を大切にすることが原点だと考える。
- ・ 不易な教育として、キャリア教育の視点を大切にしたい。

3 研修のあり方

- ・ 教員研修は自ら研鑽することを大事にしたい。
- ・ 人間力を復活させる研修を行いたい。「自分を取り戻す主体的な研修」を実施したところ、教員としての原点である新卒の学校や大学を訪れる教員、先祖の墓参りや写経、滝に打たれる経験をした教員等がいた。
- ・ 長野県の教員には、常に新しい自己の変革を求め、人としてのあり方を見つめ続けてきた歴史がある。
- ・ 持ち帰ってすぐに役立つ研修と、自身の中に残る研修のバランスが大切。

- ・ 先生方がその時必要とするテーマの研修と共に、多忙さを効率よく解消するための研修も盛り込みたい。
- ・ 教員は日々が研修。学校内で自分の能力を伸ばしていく仕掛けが大事。実際に子どもがいる学校で、研修の機能を発揮させたい。
- ・ 一人一公開や日常的に隣のクラスを見る等の取組がなされている。互いの授業を公開し、見合っ、自分の殻に閉じこもることがないようにしたい。
- ・ 高校も授業を開いてきている。授業の公開が研修となり、授業改善へと結びつけたい。先輩が後輩により授業を伝えていくことが弱くなっているのではないか。
- ・ 授業を1時間きちんと仕組める教員は、学校も学年もマネジメントができる。その後のライフコースの中でも力を付けていく原点となる。授業づくりにかける時間がとりにくくなってきている。
- ・ 教員は異動も研修である。その学校での役割やテーマを意識することができないと、研修としてスタートできない。
- ・ 自分の命を投げ出して子どもを守った先輩たちがどのような思いで子どもとかかわり、教育を考えてきたかを研修することが必要ではないか。
- ・ 社会と接する機会が重要であり、研修に位置付ける必要がある。(マナー研修、コミュニケーション能力向上の研修等)
- ・ 10年経験者研修の異業種体験研修で、プロとしての意識を学ぶことができた。
- ・ もう一度リセットし原点に還るために、40歳前後で行うキャリアアップ研修を大事にしたい。
- ・ 高校の場合、年齢に応じて教務主任や生徒指導主事等を決めているわけではない。ライフステージに応じた研修としてのキャリアアップ研修を考えた場合、研修内容と教員の役職とが一致しないことも考えられるため、工夫が必要になる。
- ・ 専門性を高めることが、教員の誇りの回復につながる。

4 教員の資質能力

- ・ 教員の資質や能力として、プロフェッショナルアイデンティティ（教員の権限、責任を自覚していること）、リレーションづくりの能力（人の気持ちがわかること、人のために自分の労力・時間を使うことができること、自分を打ち出すことができること）が重要である。

5 その他

- ・ 免許状更新講習も10年ごとに行っている。効率的な教員研修を行うためには、長野県の教員研修とすりあわせていくことはできないか。

6 資料として欲しいもの

- ・ 参考となる他県の教員研修体系等
- ・ 初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修等、実際に行われている研修の状況
- ・ 法定研修の実施状況（県で独自の実施について）